

2020 年 燕舞会第 6 期代表委員会活動報告

別紙- 3

2021 年 1 月

燕舞会 会長 佐藤 弘美

代表委員会 委員長 重原悠太郎

はじめに

2020 年は、年初の総会・懇親会を池袋のアカデミーホールで現役の参加も得て開催いたしました。その後、2 月に入り新型コロナウイルスの影響で代表委員会の活動も制約を受ける事となり、Face to Face の委員会開催は 2 回にとどまりました。従って下記に示します課題についての検討は十分に行えませんでした。

- ① 総会・懇親会開催場所の継続検討
- ② 懇親会参加者の増加を促す「魅力ある懇親会」のあり方検討
- ③ 「会員活動助成基金」（年 1 回の懇親会に拘らず、会員による会員同士の親睦に資する催しに対するサポート活動）の定義や運用に関する検討

今年は、これらの課題について検討を進められれば、と考えています。

一方、インターネット、メールベースの活動は適宜実施しましたので、その内容についてご報告いたします。

(1) 「会費納入制度」の提案とアンケート結果を踏まえた、提案の取り下げ

近年は、他大学 O B 会との燕舞会としてのお付き合いや、会員の弔事への対応等、会の活動の幅も広がっている一方、会の運営資金である「活動支援金」の集金額が、年度によりバラツキがある事から、4 月に提案、7 月にアンケートを実施しました。一定の理解は得られたものの、会員の総意を示したのではない事や、「コロナ禍」で会の運営経費がすぐさま逼迫する、という状況でもないことにより、8 月に「提案取り下げ」という見解をメルマガにて発表いたしました。

(2) ALL 東工大舞踏研究部と明治学院大学体育会競技ダンス部との活動提携についてのサポート

昨年 10 月末に、明学ダンス部の OB 会副会長の繁田氏より「**明治学院大学を学連における、東工大の共同加盟校として一定期間迎え入れていただけないか？**」という相談が佐藤にありました。本件は、一人の O B として歴史ある大学クラブの存亡は他人事とは思われず、学連の同志の力になりたいと思い現役幹部に話をもっていき労を取る事にした次第です。（学連 H P によれば、かつての代表校である東京農工大や関東学院、学習院大学も現在はそれぞれ、一橋、横浜市立大、東京理科大の共同加盟校になっています。また、明学の東部背番号は 2 4 0 番台であり、かつて東工大もこの背番号を背負っていた時代があり、何かの因縁を感じます。）相談の経緯は下記の通りです。

<明学競技ダンス部からの本件依頼の経緯>

- ① 現在明学の現役は**廃部の危機**にある。（4 年生が卒部してしまうと、在籍は 3 年女子 2 名、入部の確定している 1 年生女子が 1 名で、コロナで退部者も続出。）
- ② 現役、明学の学生部と対応策を協議し、共同加盟校（昔の表現ではパートナー校）として活動を継続していく方向を確認。
- ③ 明学は白金と戸塚に校舎があり、願するにしても大学間の距離の問題もあり、可能性があるなら東工大にお世話になれないのか？とご相談させていただいた。

本件については、数年前の「杉野の廃部の危機」も記憶に新しいところでもあり、また一度廃部になってしまった部の復活は極めて困難であり、旧 OBOG との関係、連続性は完全に失われることになる訳で、部の存続は最重要課題でしょう。かつて東工大と立地的にも近く、懇意で合同練習会なども行っていた、武蔵工業大学（現、東京都市大学）も廃部を余儀なくされております。（当時は、代表校が他大学の共同加盟校となれる制度は無かったのかもしれませんが）

<現役の判断と燕舞会代表委員会の見解>

現役は現在、明学競技ダンス部のこの申入れについて「**受入れる**」方向で調整を進めています。燕舞会代表委員会は、この現役の判断を**全面的に支持したい**と考えます。

今後連盟内の最終承認が得られた後は、両校の代表者間で、実務ベースの部活動運営のルールづくりを進めるものと思います。（練習会、部員勧誘の協力体制、固定カップル決定プロセス、レギュラー選抜方法、フォーメーション人選、部の運営経費のあり方検討等）

代表委員会は、現役から相談があればアドバイザーの立場で助言をしていきたいと思ひます。また、これを契機に ALL 東工大舞踏研究部の新たな歴史の 1 ページが始まるものと思ひますし、燕舞会と明学競技ダンス部 OBOG 会とのあらたな交流が生まれる事も期待したいと思ひます。

<補足；燕舞会会員の「明学の共同加盟校入り」への理解を深めてもらうための情報>

- ① 学連規程には加盟校は 4 校までとなっているので、明学と共同加盟の連携をしている間は、他校から申し出があっても新たな提携はできない。（近年、連盟内において加盟校の減少が危惧されていると聞いている）
- ② 仮に明学同士のカップルが存在しても、背番号は 10 番台の東工大。
（杉野服飾大学の男性（現在は共学）－白百合女性のカップルが東工大であるのと同様）
- ③ 明学競技ダンス部は独自の OBOG 会組織を有しており、卒部後はそれぞれの OBOG 会組織員となるため、白百合、杉野と立場が若干異なる。
- ④ 明学競技ダンス部は、自校の大学学生部からは体育会系部として「**いずれは、自立して代表校に復帰するよう**」求められている。このため、将来の明学の代表校復帰の工程表（道筋）を示すことは彼らの学内の立場、彼らの OBOG の思いを考えたとき、部存続と同じくらい重要ではないかと思ひます。代表委員会は、この点についても現役をサポートしていきたい。